

第19号

発行日 平成19年新春号

曹洞宗 天祐山 公田院 仁叟寺

山雲水月

発行責任者 仁叟寺 住職 渡辺啓司



平成19年丁亥 住職年頭挨拶 謹賀新年

雨洗風磨

(あめにあらい
かぜにみがく)

今から約五百年前の室
町時代に、仁叟寺を開山
なされた初代住職
直翁齋正禪師様お手植
の樅の木が、本堂前に凜
として聳え立っている。



↑群馬県指定天然記念物「樅の木」

まさに寺の歴史を見守ってきた、樹齢五百年の古木である。群馬県の天然記念物にも指定され、代々大切に保
護されてきた。落雷にも遭い、文字通り長きに亘って、雨に打たれ
風に曝され耐え抜いてきたこの樅の木を、じっと見上げていると勇
気が湧いてくる。人もかくあるべし、雨に洗い風に磨かれて堂々と
生き抜いていくべし、と語っているかの如くである。この樅の巨
木、昨今の無法混迷の世相をどう見ておられるのか？

平成19年 年回表

一周忌	平成十八年	二十三回忌	昭和六十年
三回忌	平成十七年	二十七回忌	昭和五十六年
七回忌	平成十三年	三十三回忌	昭和五十年
十三回忌	平成七年	五十回忌	昭和三十三年
十七回忌	平成三年	百回忌	明治四十一年

※1 以上、各ご家庭に於いてご確認下さい。

※2 該当檀信徒各家には封書にて通知が届きます。

平成19年 仁叟寺年間行事予定

- 1/1～1/3 年頭祈禱
1/3～1/7 年始挨拶
2/3 大節分会
2/15 釋尊涅槃会
3/11 大般若/施食会法要
3月中旬 筆供養法要
3/18～3/24 春季彼岸会
4/8 釋尊降誕会(花祭り)
7/13～7/16 京浜地区盂蘭盆会
7月下旬 第26回子供禅の集い
8/13～8/16 孟蘭盆会
9/20～9/26 秋季彼岸会
10月最終土曜日 檀信徒研修参拝旅行
12/8 釋尊成道会
12/31 除夜会
毎週土・日曜日 書道教室
毎週水曜日 定例坐禅会
隔週水曜日 華道教室・梅花講稽古

駒澤大学参禅会と第25回子供禅の集い報告



↑駒大禅友会参禅者 ↓子供禅の集い



昨年10月14日～15日に掛けて駒澤大学日曜講座禅友会の皆様による一泊参禅会が行われました。当寺では多くの学校団体の坐禅会を開催いたしましたが、宗門の大学である駒澤大学の関係者の参禅会は初めてであります。主に東京方面より18名の参加があり、中には大正生れの方もおりました。作務衣絡子を着用されている方もおり、いい緊張感をもった坐禅会がありました。

また、7月24日～25日に掛けては、当寺恒例の子供禅の集いが開催されました。地元吉井だけでなく高崎方面からも多くの参加者があり、今回は総勢39人で開催されました。禅と自然に親しみお寺の生活を体験する同行事は今回で第25回目となりました。今年も、7月の夏休み中に第26回目となる子供禅の集いを開催予定です。対象は小学3年～6年生。多くのお友達の参加をお待ちしております。

仁叟寺探索-16-

今回の探索では、当寺に残されている木製の御朱印札を紹介いたします。御朱印（状）とは江戸幕府が発行した書状のことで朱印が押されているため、そう呼ばれております。江戸幕府より朱印地である寺領25石（多野藤岡地域で最大クラス石高）を拜領していた当寺は、将軍が代わる都度、幕府より朱印状が交付されておりました。朱印状は明治維新の際に全て供出され処分されたため、その写ししか残っておりませんが、札が本堂の工事の際に方丈の間の長押から発見されました。供出を免れるため、時の住職が長押に仕舞ったものと推測されます。徳川将軍家の紋である葵紋が書かれた木製の札である御朱印札は現在、檀信徒会館「欣光閣」の床の間に安置されています。当時を偲ぶ歴史的資料として、保存し伝えて行きたいと思います。

江戸時代より伝わる御朱印札 ↓



寺誌編纂室通信-18-



↑最終編纂会議（昨年12月1日）

寺誌発刊に向けて日夜精進を重ねております。このたび、遂に発刊の目処が立ちました。総頁は約1,000を数え、仁叟寺の歴史はもとより地域や仏教など多岐にわたる内容の濃い寺誌となっております。現在ゲラが出て、写真などのレイアウトを検討し、校正や最終的な手直しなどの作業を行っております。今年3月の発刊に向け、監修責任者である外園早大教授はじめ委員一同発刊に向けての最後の作業をしております。楽しみにされている皆さんにはお待たせをいたしましたが、いよいよ大詰めとなっております。

【特別寄稿】秋の越後路を訪ねて 井上正俊

仁叟寺恒例の研修視察が、群馬県民の日である10月28日、渡辺啓司住職はじめ檀信徒など42名の参加で新潟県の古刹、名刹を訪ねて実施された。大きな上信観光バスで定刻前に出発。関越トンネルを抜けると快晴。上越国境の山頂付近に紅葉が始まっていた。

まさに川端康成だ。やはり旅は天・地・人である。

りんせんあん

先ず、名刹林泉庵。小出I.C.

近くにあるこのお寺は、仁叟寺の本寺雙林寺と同じ系統を継いであり姉妹寺ともいえるお寺である。

二年前の中越地震では、立っていられずに、ただその場に佇むのみであったそうだ。本堂の東と西の水平に10センチほどの差が出来たが、補強もままならないそうである。奥様が一人一人に鳴き龍を丁寧に体験させてくれた。ここでは住職、副住職様はじめ家族総員で我々を迎えてくれ、その接遇に宗教人の人となりを強く感じた。



↑林泉庵さまに於いての集合記念写真

次いで彫刻で有名な西福寺。室町時代後期の開山であるが、石川雲蝶の彫刻絵画漆喰細工は有名で見学鑑賞の価値は十分にある。

最後に、こここそ心も洗える雲洞庵。四、五百年も経とうかという杉木立、経文の参道、庭園

自然の美しさと心の安らぎへ参詣者を導いてくれる。煌びやかさなど微塵もない越後一の古刹。参詣した者だけが知る、心の温かさ広がり豊かさを感じさせてくれた。

この旅は、天地人に恵まれた旅だった。

午後六時半、東堂夫妻のお迎えを受けて全員満ち足りた暖かな気分で帰寺した。参詣した者のみが知る素晴らしい旅だった。

この研修参拝旅行は、来年も10月最終土曜日に開催を予定しているそうである。皆で心を洗いましょう。豊かに楽しくなります。合掌

けんりゅうだいぞうきょう

乾隆大藏經121巻寄贈される

住職の弟であり東洋大学文学部教授の渡辺章悟氏の紹介で、

じょうしゅうがっかい

台湾の佛教布教組織である淨宗学会さまより乾隆大藏經121巻が寄贈されました。大変貴重な經典で全121巻（内1巻は総覽）にも及びます。当寺では保管場所として、欣光閣の北側の電算室隣に新たに書庫を建立いたしました。書庫には他にも当寺に伝わる多くの經典のほか、佛教・禪・美術などの蔵書が納められております。重要かつ貴重な經典の寄贈、誠にありがとうございました。



↑寄贈された
乾隆大藏經

総代長新年挨拶

明けまして、おめでとうございます

お蔭様で、仁叟寺の年中行事も年毎に充実発展を重ね、足掛け七年の歳月を要した仁叟寺誌も、いよいよ発刊の運びとなりました。これもまた皆様の絶大なるご贊助の賜物と、深く感謝いたしております。

さて、寺誌編纂に伴う調査研究の過程で、開山以来五百有余年に亘って、歴代住職様や私達のご先祖様が大切に護り、受け継いできた歴史的にも、文化財としても誠

に貴重な、しかも価値ある仏像が、斯界の権威ある学識者によって、数多く確認されましたことは、すでに寺報でご承知のことと思います。

しかしながら、永年の星霜により、その損傷や変容が激しく、仏像修復は、正に急を要する状態にあります。

先祖代々篤く尊崇され、しかも大切に護られて来た貴い仏像を、次の世代に引き継ぐことは、現世に生きる私達の果たすべき重大な役割や責務であると考えます。

総代人交代のお知らせ

長年仁叟寺役員、総代人として尽力賜りました森祐夫氏（中島）より森久氏（中島）へと総代人が交代いたしました。森祐夫さん、長年に亘り誠にありがとうございました。また、森久さんに於かれましては、寺門護持のため、宜しくお力添えを賜りますよう、お願ひ申し上げます。

行雲流水（編集後記）

編集人 副住職 渡辺龍道

新年、明けましておめでとうございます。昨年より、群馬県の曹洞宗寺院を統括する宗務所に梅花主事として勤務をすることになりました。以前、仁叟寺に宗務所があったのでご存知の方も多いかと思われますが、責任ある仕事ゆえ気を引き締めて事に臨んでいく所存です。また昨年は次男修道が7月に誕生いたしました。町の広報紙でも紹介されたので、ご存知の方もおられるかと思います。兄弟仲良く育って欲しいものです。

→修道クン



ただし、この仏像修復は、何分遠大な事業ともなりますので、皆様の率直なご意見を伺い、かつまた役員会に於いて十分協議の上、ご賛同ご助成を戴きたいと存じますので、その節は何卒宜しくご支援の程お願い申し上げます。

とまれ年頭に当り、皆様のご多幸とご健勝をお祈り申し上げ、新年のご挨拶いたします。

平成19年元旦
仁叟寺総代人一同
(文責、
総代長 金子 明)



に寄ま総代人一同

金子 明	篠崎和男	関口益雄
春山 繁	井上正俊	矢島正義
宮澤二三夫	新井徳衛	森 久

